

いづくさん

朝のお勤め

第96号 H28年正月号

伊豆市 法住寺 発行

今朝も早くから朝勤が始まり、大太鼓が中伊豆、白岩の郷に響き渡っています。朝のお勤めは誠に気持ちの善いもので、ご本尊さま、お祖師さまと気持ちを通い合えたと実感するかけがえのないひと時です。

*



早朝の本堂、ご本尊さま、お祖師さま

昨年の春に左足首をねん挫し、大したことがないので通院もせずでしたが、正座ができて腰かけての朝勤でした。やっと正座

できるようになった十月中旬、その朝のお勤めも大変に気持ちの善いものでした。開け放された板戸、清々しい朝の天気、本堂正面のご本尊さまが輝きを増し、何とも云えぬ想い、感応する、気持ちが伝わっているという想いになったのです。正座は出来るようになったし、お経の力を直感できるし、気力、体力共にまだあると思ったその時、不思議なことが起こったのです。御本尊さまから光の玉のようなものが輝いたのです。

朝のこの気持ち善き朝勤を住職だけのものにしてはいけない、副住職に譲るようにとご本尊さまがご教示されたと感じました。まことに不可思議なことでした。やっと正座できるようになり気力体力共にあり、まだお勤め出来ると思ったその瞬間のことだったからです。

それまで副住職の朝勤は、私のお勤めの前後で行っていたのですが、かくして最も善き時間帯の朝勤は譲り、定時の大太鼓は洋明さんがたたくようになりました。私はその後で朝勤です。

*

生きた法華経、やすらぎをと生き方を求めて法華経の杜を歩く、
本年も宜しくお願い申し上げます。

寿量の祈り

「寿量の祈り 感謝と敬意」

大自然 ありがとうございます。

社会の皆さん ありがとうございます。

ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。

南無妙法蓮華経

世の中は次々に変化し、それにつられて不安定になりがちですが、新年のお天道(てんと)さまを拝すれば大自然への敬意は深まり、夜にはお月さまが心を静めてくれます。太陽や月に象徴される大自然は、人の世の変化に左右されることなく確かな動きをしています。この世で正しいということがあるとすれば、それは大自然そのものでしょう。

大自然 ありがとうございます。

南無妙法蓮華経

私たちは日々、さまざまな多くの人の力を頂いて生きています。スイッチ一つで灯りがつきご飯が炊ける、そこに至るまでどれだけ多くの人々の力が集まっているか。料金を払っているから当たり前前だけとは云えない、本

謹賀新年



法住寺護持会

〔総代、護持会長〕伊東修

〔総代、副会長〕杉山勲

〔総代〕森野道雄、室野義雄（世話人選出）

〔顧問〕山下一

〔世話人〕伊東徹、伊東由廣、伊東幸二、

室野義雄、山下秀治、土屋正次、

小塚健治、佐藤薫、佐藤敏明

〔監査〕杉山修、室野好信

中伊豆立正大題目講（当山）

〔副会長〕山下英子

〔顧問〕小塚勝、山下一

〔世話人〕山下要、井本まつ、三田五月、

山下しづか、伊東はつ江、伊東すゑ子、

伊東ちゑ子、三田幸子、山崎まち、

伊東通子、伊東ミナヨ、滑川正勝、

滑川美奈江、森野一夫、小塚正司、

山下清、小塚貞夫、小塚康清、

山本宏衛、小塚愛子、森野はま江、

山下千代子、佐藤雄一、佐藤賢吾、

佐藤秀夫、杉山しまゑ、

山本義富

伊豆連合大題目講（当山）

〔副会長、理事〕山下要

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

「昌子さん この怒りをどうやって鎮めればいいんですかあ？」と、若い人との会話です。「一体何があったの？」と、ひと通り話を聞きました。二ヶ月前に仕事上のミスをして、それ以後 自分なりに注意深

当に多くの皆さんのお力で豊かな生活が出来ていることを思います。勿論、最も身近で共に働く仲間や家族のお陰さまは云うまでもありません。そして私たちの直ぐ目の前を歩いて生きていることを示して下さったご先祖さま、その歩みは私たちを支え、今も導いて下さっています。

社会の皆さん ありがとうございます。

南無妙法蓮華經

ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。南無妙法蓮華經

寿命の祈り(感謝と敬意)を毎日声に出してみませんか。そして継続してみてください。何が起こるか？ まあ結果を焦らず、寝る前の布団の中でも良いでしょう、声にしてみてください。一年間継続したら、あなたに何かが起こり始めてくると思います。

万年青(おもて)



くしているにもかかわらず指摘され、その時の相手のもの言い、言い方に腹が立つ！という事でした。

「なる程ね」「そういう言い方に

腹立つんだよね」と私。いろいろ話を聞いているうちに気持ちも落ち着いてきた様子です。

「ところで、自分にとって都合の悪いことを言ってくる人が現れた時、その姿ってもしかしたら自分の心の中にもある自分の姿のひとつかもね」、「え〜っ！ それって何ですかあ？」、「変化(へんげ)の人かもよっ」、「……」。

*

さてこの若者との話の中からは大切な気付きもありました。人に対して 自分が正しい事を言おうとする時は、誰かを傷つけているかもしれないということ。また自分にとって「良い人」も「悪い人」も大事なことを教えてくれている時があるという事です。そのことは直ぐには解らないけれど。与えられた中で、何時だって感謝の気持ちを持ち続けていたいと思います。

本年も宜しくお願い申し上げます。

トピックス

境内整備



今年も大勢の檀家の皆さんに境内を整備して頂きました。年末の作業は清水①の皆さんが枝打ちや孟宗竹の伐採などに汗を流して下さいました。

十二日講の皆さんは境内清掃です。皆さんのご奉仕で気持ち良く清々しい正月を迎えることができました。

した。

楠 大きく

久しぶりに本堂西側急斜面の山を下りると、

(右)平成21年、(左)平成27年



八年前に植樹した楠が大きくなりました。陽が当たらない場所で幹は細いので



が、こんな日陰でも成長している姿に嬉しくなったのです。

中伊豆立正会



年末の中伊豆立正会の大題目は法住寺が当番で十二月六日に行われました。山下一さんには会長を一年間お勤め頂きまして、あ

りがとうございました。本年は山下英子さんが副会長をお勤め下さいます。宜しくお願い致します。

ブログより

お寺のホームページのブログより。

『12月14日 惚れる、惚ける』

どうでもいいような本を読んでいたら、びっくり。「惚れる(ほれる)」と「惚ける(ぼける)」は同じ字なんです(ねエ)。

チョット気になって角川・漢和辞典で「惚」を調べると、うっとりする。見とれる。ほか。ほれる。等が出ていたのですが、ボケルがないのです。

そこで(諸橋)大漢和辞典を久々に取り出したのです。こちらにもボケルはありませんでした。ちなみに「呆(ぼ)ける」はバカの意味とか。

そんなことより何十年ぶりに大漢和辞典を取り出したことが感慨深かったです。

この辞典は学生の頃、親にせがんで無理して買ったのですが、書棚のこやし・飾りになっていて、今では飾りどころか何と



立正会 山下会長のおつかい

か処分してと云われそうな存在なのです。昭和四十三年の出版、初版は昭和二十二年です。そもそも十二巻に索引がついて全部で十二巻の名著。もう「惚」の字に行き着くのに虫眼鏡を取りに行ったり、やっぱりメガネの方が見易いと取りに行ったり…。惚(ぼ)けはじめたかな。』

星祭り

一月三十一日(日)午後二時

何とも気持ち良く迫力のあるお経です。お申し込みは別紙または直接お電話して下さい。



洋明さんのおはなし

昨年、大荒行堂二百日の成満、十三年目を迎える寺子屋、七面山登詣団参、白龍會の池上万灯行列参加、御会式万灯、そのほか多

御志納金「十一月〜十二月」

小川 室野泉殿 尊父葬儀砌
大京 松本之雄殿 尊父葬儀砌
奈良県 手島亜紀殿 尊母葬儀砌
元村 飯田安久殿 尊父七回忌砌
函南町 塩田研士殿 尊祖母七回忌砌
尊父追善供養砌

くのお寺の行事で、本当に沢山のお陰さまを皆さまから頂きました。改めて、このような縁を下さった仏天と皆さまに感謝しております。「合掌・九拜」ありがとうございました。

＊

お寺での一日は、まず本堂での朝勤から始まります。本堂の戸を開け放ち早朝の清浄な空気を入れ、仏さま、日蓮大聖人、皆さまのご先祖さまにお経とお題目をおあげします。そして最後に、鬼子母尊神をはじめとする守護の諸天善神に皆さまの今日一日を祈願するのです。

ただ私はその朝勤の前に必ずすることがあります。それは大玄関を開け、玄関が汚れていないかをチェック。(今日は朝勤後の掃除は大変だ)とか(今日はそんなに汚れてないから良かった)などと思ってしまうのは、まだまだ未熟なことと反省。

＊

そんなある日、今朝は玄関が汚れていなかった(玄関掃除はいいか)と思い法務に出かけました。法務から帰ると何か玄関に重い空気がある気がするのです。見た目はいつもと変わらない玄関なのに何か暗く感じるのです。そこで次の日は、見た目は汚れていない玄関を掃き法務に出かけました。今日はどうかと思えば帰ってくると、玄関に日が射してい

るではありませんか。それはまるで後光が射したかのように気持ちよく清々しい光景。まるで仏さま方が出迎えて下さっているかのよう感じ、本当にハツとしました。

それ以来、玄関が汚れていなくても掃除をしています。玄関は、住まいの顔・生活の出入り口であると同時に、いろいろな方々が入りします。ですから玄関にはいろいろな気も溜まる。ゴミや塵が落ちていろいろの気見た目だけではないのです。玄関を掃く、拭くということは、魔を払うという事、そういう目に見えない溜まった気も掃いて払っているのです。これが「清浄なところには仏天が住み、魔は入れない」に繋がっていくのです。

＊

昨年は、よく住職に「本当に出来ないことは仕方がないが、ただ面倒だと思つてやらないのならやった方がよい」と言われました。確かに玄関掃除一つとっても、いろいろ突き詰めていくと面倒と思うことほど大切な事が多かったりします。今年は「面倒と思つたことを一つでも実行する」を心がけ、一人でも多くの方が気持ちよくお参り出来ますよう、日々掃除と山務に精進して参ります。本年も皆さまの笑顔のお参りを心よりお待ちしております。